

3 校内研修

(1) 研究主題

主体的に学び合い 学ぶ喜びを感じる児童の育成 ～算数科の授業を通して～

(2) 主題設定の理由

①教育の今日的課題から

これからの時代を担う子供たちには、出来合いの答えのない課題に対応する力が求められ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が不可欠である。また、「熊本の学び推進プラン」には、伝える力の定着に向けた指導の不十分さや受け身の子供たちの姿勢をうかがわせる現状を課題の一つとしている。そこで、「子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める」授業づくりを推進し、子供たちの学ぶ意欲を高め「学びの主体」として育てることが大切であると考えられる。

②学校教育目標から

本校の教育目標は「笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい 夢に向かい 郷土を愛する葛小っ子」である。『「考動」＝なりたい自分になるために』をスローガンに掲げ、学びの心を持つ子供を育てることを目標としている。また、子供たちの実態から重点的に取り組む育てたい資質能力を「学びに向かう力」「見通す力」「思いやりの心」としている。校内研修において、「主体的に学び合い 学ぶ喜びを感じる児童の育成」を研究実践していくことにより、子供たちに育てたい資質能力を高めていくことは、本校教育目標の実現に深く関わっており、その根幹を担うと考える。

③本校の実態から

本校は、現在3・4年生、5・6年生の4つの学年において複式学級での学習指導を行っている。そのため、単式学級であっても複式学級での学習を意識した学習の進め方を身に付けておく必要がある。複式学級の学習指導においては、間接指導の際、子供たちの主体的な学びが必要になる。本校の子供たちの実態としては、昨年度までの研究から、学習過程を理解し、自分たちで学習を進めることができるようになってきている。しかし、与えられた課題に対して受け身的に学習を進めていたり、学び合いの必要性やよさを感じられていなかったりといった課題が見られた。

また、昨年度の県学力・学習状況調査の正答率は、4年生の国語が県平均よりやや下回ったが、その他の学年では県平均を上回った。しかし、国語の「話すこと・聞くこと」が他領域と比べると課題が見られた。また、i-check や校内アンケートでは、家庭学習や学び合いに関する項目では肯定的な回答が多かったが、数名の児童が課題を感じていると回答していた。そこで、本年度は本主題を設定し、子供たちの力をさらに高めていきたいと考えた。

(3) 研究主題のとらえ方

- ①「主体的に学び合う児童の姿」とは、課題解決に向かって学び方を習得し、自分で考え、互いの考えを伝え合い、学び合うことで、考えを広げたり深めたりすることができることと捉えた。
- ②「学ぶ喜びを感じる児童の姿」とは、互いの考えを伝え合い、学び合ったことをふり返り、「わかった」「できた」という実感や達成感、「もっとやってみよう」「次の学習や他教科、生活に生かそう」という学習意欲につなげることができることと捉えた。

(4) 研究の仮説と視点

仮説	視点
仮説1 基本的な学習習慣を定着させ、深い学びにつながるような指導方法を工夫すれば、主体的に学び合う児童が育つだろう。	(1) 基本的な学習習慣 ①支持的風土作り ②基礎基本の徹底 ③学習訓練の徹底 ④家庭学習の充実 ⑤読書活動の推進 (2) 指導方法の工夫 ①深い学びにつながる「発問」の工夫 ②複式学習指導方法の工夫 ③ICTの効果的活用
仮説2 学びの実感や達成感を持ち、更なる学習意欲につながる終末の工夫を行えば、学ぶ喜びを感じる児童が育つだろう。	(1) 「ふりかえり」の工夫 ①単位時間の「ふりかえり」の工夫 ②単元末の「ふりかえり」の工夫

(5) 研究仮説の検証方法

- ① 仮説検証授業において（授業研究部）【学級担任は年に一度研究授業を行う】
 - ・ 仮説を中心とした協議（事前研は模擬授業、事後研はワークショップ形式）
 - ・ 「芦北管内統一事項（授業づくり）」を基に作成した「葛渡小版授業づくり」の活用
 - ・ 授業中の児童の発表や発言、ノートやワークシートの記録
 - ・ 教師の発問による児童の言動や考えの変容
- ② 日常的な取組において（日常活動部）
 - ・ 支持的風土づくりを土台とした学級経営【各担任】
 - ・ 学習訓練の定着（「学びの基礎基本」の活用）【各担任】
 - ・ 学年の系統性を考慮した「学習ガイド」の作成と学習リーダーの育成【各担任】
 - ・ 学習過程と学習の仕方の提示【各担任】
 - ・ 学習環境の工夫（ICT活用、ノート指導、板書の工夫等）【各担任】
 - ・ 基礎基本の定着（漢字・計算大会、放課後補充教室）【全職員】
 - ・ 家庭学習の充実（「家庭学習の手引き」「家庭学習 POINT 5」（芦北管内統一事項を本校版に作成したもの）の活用）【各担任】
 - ・ 読書活動の推進
- ③ その他
 - ・ 県学力・学習状況調査、NRTの結果分析と課題克服問題や過去問等の活用【全職員】
 - ・ 研究に関わる児童や教職員へのアンケートの実施と結果分析（6月、11月、各研究授業後）【全職員】

(6) 研究の組織

